

共に楽しむ

愛媛県立図書館長 藤田 聡司

県立図書館では、子どもたちが本と楽しく出会うためのきっかけ作りということで、様々な催しを行っています。昨年の夏、パパ's 絵本プロジェクトをお招きし、「おとうさんの絵本おはなし会」を開催したところ、大変好評でしたので、今年も来ていただきました。8月4日は、松山市PTA連合会との共催で、県美術館の講堂を会場に、午前・午後の部各1回開催。8月5日は、午後に1回、宇和島市立中央図書館の御協力をいただいて開催しました。

パパ's 絵本プロジェクトは、育児真っ最中の、絵本が好きな3人のパパたちが、4年前に結成したグループ。月に1、2回、全国各地で「出張お話し会」を行い、この夏で、100回を超えたそうです。絵本を子どもたちとのコミュニケーションツールと考える彼らのお話し会は、メンバーの一人、安藤パパによると、「『読み聞かせ』というよりストリートライブ」に似ています。

さて、4日の朝、1年ぶりの再会。田中パパが、「館長さん、今年も一緒にいかがですか。」実は、昨年、私も、ひよんなことから、ステージに上がり、絵本を1冊読んだのです。今年も誘われることは、充分予想できた展開なのに、何も考えていませんでした。気持ちは半分逃げ腰。でも、断る理由も、ありません。結局、午後の部で、今年もすることになりました。では、何を読むか。すぐ思いついたのが、昨年読んだ『おじいちゃんのごくらくごくらく』。しかし、貸し出し中。パパたちのように、絵本を使って、子どもたちと言葉のキャッチボールを楽しむことは、今の私にはできそうにありません。子ども読書係の司書さんに、文字がたくさん書いてあるものを、4冊ほど選んでもらい、その中から、私が一番心を惹かれた『島ひきおに』を読むことにしました。『島ひきおに』は、ひとりぼっちの鬼の悲しい話です。「恐れ」の対象ではない鬼を、だまし、拒む人間たち。彼らは、本当は鬼がさびしくてたまらず、自分たちと仲良く

したがっていることを、決して分かれようとはしません。存在そのものにまつわる何か根源的な悲しみが、いつまでも心に残る、そんな話です。

パパ's 絵本プロジェクトのお話し会は、1時間程度。3人が、1冊ずつ読み、計6、7冊の絵本を読みます。一番手は、金柿パパ。くだものの切り口の絵を見て、その名前を当てるクイズ系の絵本で、すぐに子どもたちを夢中にさせます。今日の子どもたちも、すごく反応がいい。そして、安藤パパ、田中パパに続いて、ステージへ。汗が噴き出てきましたが、食い入るように見つめる子どもたちの瞳に励まされて、なんとか読みきることができました。

今年は、昨年よりも更にパワーアップして、お話し会の最後で、安藤パパがギター、田中パパが太鼓、金柿パパがタンバリンを演奏しながら『三びきのやぎのがらがらどん』の歌も歌ってくれました。子どもも大人も一緒に、本当に楽しい時間を過ごすことができました。



演奏するパパ's 絵本プロジェクトのパパ3人と藤田館長（左端） 宇和島市生涯学習センターにて

子どもを寝かしつけるための家事として絵本を読むのではなく、子どもと共に過ごす時間を楽しみながら絵本を読み聞かせるお父さんたちが、もっともっと増えるといいなと、改めて思います。

ビジネス支援セミナー「図書館が四国を救う!？」開催！

去る5月22日、ビジネス支援セミナー「図書館が四国を救う!？ ～自治体の商工部門と図書館との連携による地域経済活性化を考える～」を開催しました。当日は県内外の図書館、自治体の商工部門、ビジネス支援機関の関係者など60名を超える方々にご参加いただきました。

今回は、ビジネス支援図書館推進協議会会長で、電気通信大学産学官等連携推進本部客員教授の竹内利明先生によるご講演の要旨を掲載します。

講演「商工部門と図書館の連携による

地域経済の活性化！」(要旨) 竹内 利明



日本は80年代後半に、キャッチアップ経済からフロントランナー経済への転換を迫られた。キャッチアップ経済のときは、既に欧米で実現しているもの

をいかに速く日本で実現するか、というように、必ず存在するはずの答えを短時間で見つけ出すことが重要だった。しかしフロントランナー経済では、既に実現していることをやっても大きな成功は得られない。答えが存在するかどうか分からないことにチャレンジして初めて大きな成功が得られる可能性が生まれる。そこで、創造力豊かな「知価・知識社会」の構築が必要になる。では、「知価・知識社会」とは何か。これは、自分の意思で選択した情報に基づいて、自分の頭で考えて、自己責任で行動する。このように行動すると、結果の成否だけでなく、その過程で多くのノウハウを体得できる。このように行動して獲得したすべての知識が広義の「知的財産」である。これが国富の源泉となる社会、それが「知価・知識社会」である。日本という国全体がこのような環境の中に置かれているので、地方においても「地域情報化」が重要である。「地域情報化」とは、住民が日常生活で直面するさまざまな問題を自己責任で判断し解決するために必要な情報を容易に入手できる環境を整備することであり、その結果住民が幸せになることを究極の目的としている。図書館は敷居が低く、「地域情報化」の拠点として最適だと感じる。

企業は、元来、自己責任で、自己判断して、行動しているが、情報のない状態で判断すると失敗する可能性が高まる。そこで企業は、情報を収集する必要がある。この情報収集拠点として最適なのが図書館である。なぜなら図書館は、敷居が低く誰でも利用でき、過去の情報を捨てずに蓄積して、その情報を探すことができるようにデータベース化への取り組みも一部で始めているからだ。産業界にとっては、最新の情報だけでなく、情報の蓄積があることこそ重要である。これからの時代は商工部門と教育委員会にある図書館が、縦割りではなく、住民の課題解

決のために協力していく必要がある。その具体的な活動が公共図書館のビジネス支援サービスである。

公共図書館のビジネス支援は、政府の方針として「骨太の方針2003」に登場しており、文部科学省の「これからの図書館像」などでも言及されている。公共図書館のビジネス支援サービス実現には、図書館関係者だけでなく、自治体の商工部門をはじめ、中小企業診断士や税理士、企業経営者などの参画・協力が不可欠である。図書館は土日も開館しているので、サラリーマンが創業準備に活用できるし、忙しい小規模企業の経営者も利用できる。公共図書館の代表的なビジネス支援サービスとしては、レファレンス、セミナー等の開催、ビジネス支援コーナーの設置、中小企業庁の情報配信サービス、中小企業診断士など専門家による相談会、地元企業の紹介、地元の観光パンフレットの提供などが行われている。また、データベースの提供も新聞記事などから始まっているが、とても重要である。

特に、ビジネスに有益なのは、レファレンスである。レファレンスについて初めて教えていただいたとき、企業にとってこんなにありがたいサービスはない、と思った。レファレンスで重要なことは、答えを教えることではなく、答えを導き出す文献などを提供することである。もし、異なる意見があれば、それが書かれた文献類を複数提示する。最終的な判断は利用者が下すことを基本としているからだ。また、レファレンスと、創業やビジネスの相談のポイントは、すごく似ている。創業やビジネスの相談で一番大事なのは、レファレンスと同じで、いかに聴き出すか、である。事業計画の相談では、相手が話しやすいように持ちかけて、聴きながら確認して、ビジネスプランに矛盾があれば、創業者自身に気付かせる。その結果、再度、悩み、考え、修正してきたプランをよく聴く。この繰り返しである。司書は聴く能力が高いと感じるので、創業支援に向いている。特に女性や団塊の世代の創業支援からスタートするとよい。

最後に、特に四国では、地域を盛り上げるために、新しいことにチャレンジする人を、みんなで積極的に応援して、新しいことにチャレンジしやすい風土を作っていくことを是非お願いしたい。

(ビジネス情報支援サービス担当 天野 奈緒也)

愛媛県立図書館 レファレンス・カウンターを常設しました！

県立図書館3階・第一閲覧室では、4月よりレファレンス専用カウンターを設けました。図書館が収集・保存している資料等を駆使して専門の係員が参考となる資料を提供します。

レファレンス (reference) とは

情報を求めている利用者に対して、図書館員が提供する個人的援助。

利用者の質問に対して、回答となる情報そのものを提供したり、回答の含まれる情報源を指示・提供すること（『図書館用語集三訂版』より）

レファレンスの例

- ①「〇〇協会の住所が知りたい」
- ②「愛媛県の移民の資料はないですか」
- ③「〇〇という漢字の読み方を知りたい」

疑問に思ったこと、知りたいことを図書館員にたずねること…それがレファレンスです。

このレファレンス・サービス。図書館員は、どのようにして調査、回答しているのでしょうか。今回は、これまでの記録を通してご紹介します。

問 「何事のおはしますをばしらねどもかたじけなさに涙こぼるる」は西行の歌ですか。

「西行の歌であることを確認したい」という問いであるので、まず、『山家集』『山家心中集』などの西行の何冊かの歌集をひもとく。しかし、出てこない。これらに収録されていないということは、ひょっとして西行作ではないのか…。

そこで、『国歌大観』（角川書店）を調べることにした。同書は万葉集・勅撰二十一代集をはじめ主要な私選集・私歌集等多数の作品を収録している。加えて、句索引によってそれらすべての一首一首を簡便に検索できる。全10巻の索引に当たってみる。

すると、『新編 国歌大観 第三巻 私歌集編Ⅰ 索引』に、「なにことの 126 西行家」を発見した。P917に「126 西行法師家集」とある。解題の概要は次のとおりである。「西行法師家集は、一般に異本山家集と呼称され、六家集本系の山家集とは別系のものである。本集は、周嗣本系、頼阿本系、板本系の三系統に分類される。」

このうちの板本に、「太神宮御祭日よめるとあり 二 何事のおはしますをばしらねどもかたじけなさに涙こぼるる」をついに見いだした。「西行法師家集」に収録されていることが判明した。

結論としては「異本山家集の板本系に収録されており、西行作であろうと言われている」という回答となった。

問 愛媛には、瞽女（ごぜ：盲目の女旅芸人）の伝説はありますか。

まず、『愛媛県百科大事典』（愛媛新聞社）で「瞽女」をキーワードに調べてみる。同書は、愛媛に関するあらゆる事象を、五十音順の項目でまとめている。上巻 P514～515 に、以下の二つの項目があった。

1 瞽女石（ごぜいし）



東温市の瞽女石

東温市（旧温泉郡重信町）上林峠の坂道に、ある人が座ったような大きな岩にまつわる伝説。瞽女石には、一夜の宿を断られ、死に絶えた瞽女のたたりや、夫を捜し求めた妻女が、泣きながら盲目になって死んだことから、眼病の霊験があるといわれ、今も念仏供養、供物や願掛けがなされる。

2 瞽女が峠（ごぜがとうげ）

八幡浜市保内町（旧西宇和郡保内町）北部の地名の由来に関する伝説。標高340m、「ごぜがと」ともいう。平家谷の落人たちが源氏の追手を見張るため瞽女に変装した番人を置いたことに由来する峠。

「他の伝説は？」さらに資料を探る。瞽女石について。石は旧重信町にある。『重信町誌』を開く。P1247に「ごぜ石」とあり、『愛媛県百科大事典』と同様の伝説が記載。また、『伊豫むかしむかし 2-5』（あけび書房）では「ごぜのゆうれい」（P12）として載っていた。

瞽女が峠について。『保内町誌』には記載なし。『伊予の伝説』（日本の伝説36 角川書店）P13に、屋島の合戦に敗れた平家が、瞽女が峠において瞽女を、言葉のなまりで関東武士を聞き分けるための見張り番としたという伝説が収録されていた。

『愛媛県史 民俗 上・下』（愛媛県史編さん委員会）、『伊予の民話』（愛媛文化双書刊行会）、『伊予路の伝説』（愛媛地方史研究会）、『伊予路の歴史と伝説』（新潮堂書店）などの愛媛の民俗に関する資料を調べたが、瞽女についての伝説の収録はなし。念のため、愛媛の民俗についての逐次刊行物『伊予の民俗』（伊予民俗の会）の1号から48号までの総目録と、大正4年から現在まで発行されている『伊予史談』（伊予史談会）の「記事索引」を調べたが、収録なし。

以上の調査から、愛媛の瞽女に関する伝説は二つ、石と峠にまつわるものがあると思われる。

図書館の資料で調べがつかない場合には、国立国会図書館に照会したり、専門の情報機関をご紹介したりもいたします。

（相談係 白石 直美、普及係 古茂田 進雄）

伝えよう読書のよろこび 広げよう感動の輪

— 愛媛県読書グループ連絡協議会（県読連）総会・読書推進大会だより —

平成 19 年度「県読連総会並びに読書推進大会」が 6 月 29 日（金）、にぎたつ会館（松山市道後）で開催され、県下各地より読書グループ関係者、読書教育関係者、読書愛好者等 167 名が集った。

平成 20 年度は、3 年ぶりに「2 大会開催」決定！

総会では「県読連の今後の方向性」として、以下の大会運営方針（理事会案）が示され、承認された。

平成 20 年度は、3 年ぶりに 2 大会を開催する。
… 総会・読書推進大会（6 月開催）に加え、愛媛県読書活動研究大会（11 月、平成 17 年度まで 42 回開催）を復活させる。

県読連は、近年、加入人数が大幅に減少し、深刻な財政難に陥っていたが、会費値上げや徹底した経費削減、そして、当面の 1 大会開催などによって財政状況はやや持ち直し、2 大会復活にこぎつけた。参加者（会員）からは「大会が多い方が、皆が集い、研修する機会は増える」「とにかく削減・縮小のご時世に、明るいニュース」などの喜ぶ声が聞かれた。

「持ち味を発揮」「面白さや奥深さが伝わってきた」

総会後の読書推進大会では、東・中・南予それぞれの代表によって、他の読書グループへ大変示唆に富んだ推薦図書発表がなされた。

「つわ読書会」（西条市丹原町）黒河彰子氏は、長年の万葉集歌碑巡りの貴重な実践を紹介し、『万葉集抄』（小野寛 校註）、『王事の悪徒』（澤田ふじ子）等の奥深さを生き生きと伝えた。また、「三瓶町読書グループ連絡協議会」（西予市）橋本和彰氏からは、『私の仕事』（緒方貞子）、『寝ても覚めても本の虫』（児玉清）等を通して、図書の「回し読み」などの発想豊かな実践が報告された。「たまゆら会」（東温市）西田芳子氏は、巧みなスライド発表とうっとりする美声で『小倉百人一首』（田辺聖子）、『千

の風になって』（新井満）等におけるグループ鑑賞活動の充実ぶりをアピールした。

きりの ゆたか
「21 世紀は知性の時代」桐野 豊氏 講演会



午後は、徳島文理大学長、東京大学名誉教授・前副学長、薬学博士の桐野豊氏を招いて「科学・技術と現代の教養」と題した講演会を行った。先生のエネルギーで巧みな語り口と、長年の御研究で培われた「人間力」とでもいうべきもの

に、参加者はすっかり魅了された。

「21 世紀は知性の時代である。知識の創造が大切。したがって、大学は『研究（知の生産）に基づく教育（知の継承）』の使命を負う」「科学の成果を社会の課題解決に賢明に活用しなければならない」「科学的知識の中で、生物学が特に重要。なぜなら、現代の重要な病気は、細菌・ウィルス等による『感染症』と、人間の体の内部から起こる不具合である『生活習慣病』の二つだからである」「教養とは、自分の専門ではない領域について自己学習する能力である」……科学、薬学、教養といった専門性の高い内容を、私たち参加者に分かりやすく説明してくださった。それらの奥深さに感嘆したことはもちろんであったが、プレゼンテーションを駆使され、熱心に訴え掛けられる先生のそのお姿に、やはり、研究者としての飽くなき熱情や誇りが感じられ、参加者一同、大変興味深く学ぶことができた。

演題のとおり、私たちにとっては、講演会自体が正に「現代の教養」を授かる場となったわけである。
（事務局 富永 俊樹）

愛媛県立図書館の利用案内

【付近略図】

【開館時間】

火曜から金曜…午前 9 時 40 分から午後 7 時まで
土・日・祝日…午前 9 時 40 分から午後 6 時まで
子ども読書室…午前 9 時 40 分から午後 5 時まで

【休館日】

月曜日（祝日の場合は、直後の平日）
年末年始（12 月 29 日～1 月 3 日）
特別整理期間（10 日以内で館長が定める日）
館内整理日（毎月末日、ただし、その日が上記休館日、土・日曜日に当たるときは館長が定める日）

【駐車場】

図書館専用の駐車場はありませんが、県庁西駐車場（旧国際交流センター跡地）をご利用できます。ただし、駐車台数に限りがありますので、できるだけ公共交通機関のご利用をお願いします。

編集・発行 愛媛県立図書館

〒790-0007 松山市堀之内
TEL 089-941-1441 FAX 089-941-1454
<http://www.library.ne.jp/ehime/>
e-mail: tosyokan@pref.ehime.jp